

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102550		
法人名	医療法人雅会河野整形外科		
事業所名	グループホーム かざぐるま		
所在地	宮崎市大字島之内7310-1		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の立場に立って、その人らしさを大切にしています。利用者一人ひとりの心の声に耳を傾け、安心して生活できるように支援しています。出来る事、出来るような事を日常生活の中に取り入れ、家庭的な雰囲気作りを目指し安心して生活できる空間を目指しています。又、家族の協力を得、御本人、職員と外食などを楽しめるよう、個別ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、経験や力量に応じて、利用者を担当制にし、個別ケアを基本に、利用者に向き合いたいという思いを共有している。ホームの理念は、昨年、職員一人ひとりが考え全員で作上げた、五か条からなるホーム独自の理念にも示され、毎月のミーティングで振り返り確認している。ホームのある敷地内には、運営する法人等の整形外科や歯科、耳鼻科などの医療機関やホームの2階にはデイサービスがあり、緊急時には、職員の支援や受診およびリハビリ等の継続的な治療が受けられる環境にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で介護理念を作り、職員が理念に沿ったケアを実践している	ホーム独自の理念がなかったが、昨年、職員の一人ひとりが、受けたい介護やめざす介護を基に、全員で具体的な表現の5か条の理念をつくりあげた。ミーティング等では、理念が共有され、実践されているかを確認する機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等に、地域のボランティアの方の慰問や地域のふれあい会食会などに参加している	日常的な地域のつきあいが少ないので、地区の班長、民生委員、地域包括支援センター等からの支援を受け、利用者とともに地域の祭りや高齢者の会食会に参加したり、認知症に関する講話依頼を受けるなど、努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動を通して認知症サポーターを地域に広めている。又、地域の方の認知症の相談窓口となっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は職員の人員不足があり、9月に地元の消防団と地震、津波に対する対策についての会議のみとなっている	運営推進会議の意義は理解しているが、委員数および会議の開催も少なかった。その中で、今回の会議に地域の消防団に参加してもらい、地震や津波災害をテーマに指導を受け、ホームの災害対策の検討を始めている。	ホームの情報を積極的に提供し、意見を運営に反映するために、委員には利用者、家族の代表者や地域の推進役を加え、会議の開催は、少なくとも隔月ごとに実施されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター方式の推進員として協力しており、他の事業所の課題を考えることで、当事業所に反映している	市の介護関係事業や研修、会議に参加、協力し、情報交換や助言を求めるなど、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口の扉に鍵はつけているが、自身で開けられるようになっており、自由に出入れる環境にあり、本人本位のケアに取り組んでいる	設計上、他事業所との共有玄関はオープンであるが、ホーム出入口は事務所から見えづらい位置にあり、施錠している。外出希望者には、担当者が個別に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。常に声掛けなどにも注意を払い、ご本人のプライドを傷つけないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通じて学ぶ機会を持ち、分からないときは包括の方から助言をもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御本人、家族に分かりやすく説明を行い、重度化に伴う家族の不安に対して、相談に応じている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望に応じられるように、家族の協力は得ているが、運営推進会議のメンバーや外部の人に伝えられるような機会は出来ていない	家族などの意見を反映させる機会が少なかったが、ホームの運動会に多くの家族が参加され、家族同士の話し合いでは、来訪時には少なかった意見や要望が出された。今後、家族会や運営推進会議など、家族等が参加する場を検討している。	家族と職員がホームの運営にともにかかわることは必要であり、家族会や運営推進会議等、家族の意見や要望が出され、運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上のミーティングを行い、みんなの意見を取り入れている。又、意見ノートや申し送りノートで、日々の疑問点や提案が出来るようにしています	職員が認知症および利用者を理解するために、全職員でセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)に取り組んでいる。ミーティングでは、職員の疑問や意見、提案が多くなり、誕生日外食などを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努め、みんなで話し合い、積極的に職員の意見を取り入れ、利用者とは和気あいあいと過ごせるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アットホームケア研修やブロック研修などの法人外研修に参加している。事業所内研修を必要に応じて行っているが、事業所内での定期的な研修を行っていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アットホームケア研修やブロック研修で他事業所職員との交流を図っている。ケアマネはケアマネ協会に入会し、情報収集を図り、ケアの質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、ご本人の想いや不安、悩みを細かくお聞きしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に、御家族の困っている事や今まで大変な想いをされていた事をお聞きし、「ご本人の為に一緒に考えていきましょう」とアドバイスしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所や協力医療機関、地域包括支援センター、インフォーマルサービスも含めたサービスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に共に笑い、泣き、怒り、常に寄り添うことで、信頼関係をj得ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が職員に何でも相談できる関係作りを作る為に、担当職員が御本人、家族と一緒に外出する機会を作り相談しやすい環境作りを整えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、自宅で知人、友人と会う機会を持てる方もいるが、殆どの方が継続は難しくなっている	家族とともに外出する時には、友人や知人と会う機会を作ってもらったり、思いの場所をたずねるなど、なじみの継続支援の目的を説明し、協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみが出来ない利用者のものをたんでくれたり、配膳を助け合っている姿が見られる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	センター方式シートを家族の了解を得て、情報を提供している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人がどのように暮らしたいか？をご本人の言葉や生活歴の中から探り、職員で話し合い実現するようにしている	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を用いて、アセスメントでは家族との話の中から、昔の好みや生活習慣を把握し、本人の気持ちを理解しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からどのような生活を何処でしていたのか？好きだった事、得意だった事は何か？をひもといている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴の中から、得意だった事、好きな事を職員がサポートしながら一緒にやっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当職員がモニタリングを行い、目標、サービス内容の検討を職員全員で行っている。又、家族の面会時には情報収集を行っている	来訪や電話による家族の意向や、職員の意見、介護記録などを介護計画の作成に反映させている。目標達成に向けて担当者が主体となり、毎月モニタリングを行い、全職員でサービス内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のD4シートを使い、御本人の言った言葉やケア者の気づきを記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や家族の想いに寄り添えるように、ボランティアの協力を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住吉地域包括支援センターやボランティア、地域の消防団の協力を得ている。又、近くとスーパーなどに買い物に行けるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、御本人の心身の状況に合わせて協力医を決めている。又、認知症の専門医にはCMが必ず同行し、症状を詳しく報告している	家族と通院したり、ホームに往診してもらうなど、かかりつけ医は本人や家族の希望である。認知症専門医療機関にはケアマネジャーも同伴し、ホームでの日常生活状況を詳しく報告し、カンファレンスが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所が病院で隣接しているため、常に支援できる体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の許可を得て情報提供を行い、職員が面会に行くように努めている。又、食事介助が必要な場合は協力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス時や面会時に、家族の意向を聞き、終末期に御本人が穏やかに生活できるように家族、職員、Drと相談し、ケアの方針を立てている	ターミナルの対応であったが、ホームでは医療行為ができず退所した経験から、同法人の医療機関や介護関連事業所も含めて、家族等が希望・選択した終末期に対応できるように話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や事業所内研修で技術の習得を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との訓練は年2回行っているが、全職員が身につけているとは言えない。災害の発生時に備えての食料などの備蓄も出来ていない。今後、備蓄と災害時のマニュアルも作成予定	火災・防災・避難訓練は年4回実施しているが、津波災害については、消防団の指導により、市のハザードマップでは、12メートル以上の津波ではホーム2階への避難では安全とはいえず、備蓄を含めて具体的な対策ができるまでには至っていない。	近くに河川があり、水害対策の避難先としては、地域に3階以上の事業所ビルがあるので、避難受け入れや避難誘導をお願いし、避難訓練時に参加してもらうなど、具体的なマニュアルを作成し、災害訓練を重ねていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライドを傷つけないように、否定せずに御本人の話を良く聞き、御本人に分かるように分かる言葉で言葉かけをしている	職員は、利用者を否定しないことを基本として、丁寧な言葉や態度で接するよう努めている。呼称には姓では緊張する利用者があるため、職員の話し合いや家族の同意を得て、全員を名で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の言葉や行動の中に秘められている想いをセンター方式のD4シートに記録し、職員全員で探り出している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は一日おきで行っているが、御本人が入りたくない時は無理強いはしていない。利用者の認知度が高くなり、一日の過ごし方にあまり変化が見られなくなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に3ヶ月に1回、御本人や家族の希望に合わせ、カットやカラーをG・Hでしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の得意な利用者と一緒に、野菜の下ごしらえや配膳を楽しそうにされている	その日の献立により、下ごしらえや味つけ、配ぜんなど、利用者も力量の範囲で参加している。利用者は、食卓では好みの定位置があり、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事にムラがあり、栄養の隔たりがある利用者には、エンシュアをおやつ時に飲んで頂いている。水分補給も日中、夜間に御本人がいつでも飲める環境を整えている。又、セラミックの茶碗を使うなど、利用者に合わせて選んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は御自身でして頂くが、磨き残しが見られる方は、職員が磨きなおしを行っている。口を開けてもらえない利用者は、声かけの仕方を工夫し、ケアの統一を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御自身で行かれない方は、2時間ごとに声かけ誘導を行っている。自身で立位が取れない利用者も日中のみ二人介助で行い、出来るだけトイレで排泄できるように支援しています	利用者の半数は尿意がないが、排せつパターンを把握したトイレでの排せつ支援が行われている。自立者で希望者には、夜間は自室でポータブルトイレを使用して、安心安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、職員が排便状況を把握し、水分補給や食事に気をつけています。又、自然排便を促すために、ヨーグルトを毎朝食べている方もいる。下剤服用はDrと相談しながら服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっているが、御本人が入りたくない時は、翌日にするなど臨機応変に対応している。又、入浴剤を入れ、気持ちよく入って頂くようにしている	入浴は、毎日4～5人ずつに分けて支援している。入浴しない日は、排尿等、排せつ後の部分浴(洗浄)を行い、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後など、疲れが見られるときは、仮眠を取って頂くよう声かけを行っている。夜間不安で眠れない利用者は、安心できるように側で寄り添い、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御本人の日頃の様子を把握し、いつもと違う様子がみられたら、主治医に報告し、指示を仰いでいる。又、誤薬、飲み忘れを防ぐため、服薬前に職員二人で確認、服薬確認表に服薬援助を行った職員が個々に印鑑を押している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員のサポートで、好きなこと(園芸など)をして頂いている。又、コーヒーなど、御本人の好きな飲み物を職員や他利用者と楽しむ時間を持っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と担当職員と一緒に、外食や買い物に行く外出支援を行っている。又、家族だけでの帰省が困難な利用者は、職員が帰省を行っている	職員は、リハビリ治療者の同行や食材購入等のため外出しており、職員だけでは利用者個々に希望する日常的な外出支援は難しいため、家族に協力してもらい、外食で誕生祝を行うなど、外出の機会に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族よりお預かりしているが、本人や御家族の希望で、買い物や外食・身の回りで必要な物の購入に使っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人より家族に電話をしてほしいと要望があれば、職員がとりつぎ電話をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分のお部屋は、家族の写真を飾ったり、御自身で描かれた絵を飾られている方もいる	各居室から出ると、食堂兼リビングとなり、トイレや浴室もわかりやすく配置されている。設計上、外を見ることができないが、室温、照明や音、不快な臭気は無く、居心地良く過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間は居室のみ。リビングやソファで、利用者同士や職員を交え談話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や絵を飾られている。昔使われていた鏡台を置かれている方もいる	使い慣れた日用品や思いのある小物・写真を置いたり、夜間のみポータブルトイレを入れ、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中トイレに行かれる方でも、夜間転倒の危険がある方は、ポータブルトイレを置いて、自分で安全に排泄ができるようにしている。又、夜間自分の部屋で寝つかれない方は、職員が寄り添い、ソファで対応するなどし、安心できる環境作りに努めている		